

令和 8 年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	(1) 内容や事柄を正確に理解する力 (2) 内容や事柄を適切に表現する力	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 68.0% (1) 言語理解 漢字や語彙の定着および文中や記述から意味を正しく捉えたり記述したりする力が十分ではない。 (2) 話すこと／聞くこと 相手の話を聞いて内容を整理し、根拠をもって自分の考えを伝えることに課題がある。 (3) 書くこと／読むこと 文章の内容や構成を正確に捉え、必要な情報を読み取る力に課題が見られる。読み取った情報を基に、自分の考えを整理し、相手に分かりやすく記述する力をさらに高める必要がある。特に、「書くこと」に関する正答率は 50.4%と、他の観点と比べて低い。 (4) 学習状況調査 授業以外での 1 日あたりの読書時間が 30 分未満の児童が 68%、学校図書館の利用頻度が週 1 回未満の児童が 69%と低く、日常的な読書習慣の定着に課題が見られる。	(1) 言語理解 朝学習や帯時間を活用し、漢字や語彙を文章の中で使う活動を取り入れる。読書活動を充実させ、多様な語彙や表現に触れる機会を増やす。 (2) 話すこと／聞くこと 複線型授業の一環としてペアやグループでの対話活動を充実させ、相手の考えを聞き、自分の考えを伝える機会を確保する。また、話の内容を要約し、話し合い活動を継続的に取り入れ、根拠をもって話す力と、目的に応じて聞く力の育成を図る。 (3) 書くこと／読むこと 語彙や漢字の定着を図るとともに、要点やキーワードに着目して読む活動を充実させる。文章や資料から必要な情報を選び、要約したり自分の考えと関連付けたりして表現する活動を計画的に取り入れる。また、児童同士で考えを交流し、互いの学習作品を読み合いながら推敲する機会を設けることで、読解力と表現力の向上を図る。 (4) 学習状況調査 朝読書や読書記録、ブックトークなどをより充実させ、読書に親しむ機会を計画的に設定していく。学校図書館と連携し、学習に関連した図書や、教科書で取り上げられる作者の関連作品を紹介する活動や、多様な文章に触れながら、自分の考えをまとめたり伝えたりする活動を充実させる。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	(1) 地図帳や各種の資料をとおして、必要な情報を調べまとめる技能 (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会的に見られる課題を把握して、その解決に向けて考えたことを表現する力	(1) 学習問題を解決するために必要な資料を選ぶ力や、資料と資料とを関連付けて考える力に課題が見られる。 (2) 資料から読み取れることを基に、問題の解決に向けて考えたことを表現する力に課題が見られる。	(1) 図やグラフ、地図などの資料の見方や読み取りの視点を全体で共有した上で、個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた複線型授業を展開する。また、ICTを活用して複数の資料を比較・関連付けながら考察する場を設定する。 (2) 資料から得た情報を整理・分析する学習を取り入れる。また、地域や社会的な課題を自分事として捉え、実生活や既習事項と関連付けながら、よりよい社会の実現に向けて考えを交流・表現する学習活動を意図的・計画的に取り入れる。
算数	(1) 数量の関係を捉え、数学的に処理・活用する力 割合や数量の関係を的確に捉え、数直線や図、表等を活用して関係を構造化するとともに、既習事項と関連付けながら問題を解決する力を育成する。 (2) 根拠を明確にして、論理的に表現する力 自らの思考過程を整理し、数量やデータを根拠として、式や図、言葉に関連付けながら、考えの妥当性や理由を筋道立てて説明する力を育成する。	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題 本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 70.0% (1) 領域別の正答率を見ると、「変化と関係」は58.0%、「データの活用」は62.0%と、他の領域に比べて低く、特に割合や二次元表の読み取りが課題である。 (2) 観点別正答率において、「思考力・判断力・表現力」に関する問題は56.1%と低く、記述で解答する問題は、正答率が下がる。思考を整理し、筋道を立てて説明することに課題がある。	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 (1) 数学的な見方・考え方を働かせる授業の充実 割合や二次元表等の学習において、具体物、図、数直線、表等を効果的に活用し、数量の関係やデータの特徴を分かりやすく示す。また、比較・関連付け・理由付けを促す発問を設定し、児童の思考 (2) 対話と記述を往還する学習過程の構築 複線型授業を展開する中で、ペアやグループで対話する機会をもたせる。多様な考えに触れ、自らの思考を再構成する場を設定するとともに、対話した内容を基に自分の考えを記述する活動を充実させる。さらに、学年内で学力調査の結果や児童のつまづきを共有し、指導の系統性を図る。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	(1) 自然の事物・現象に対して自ら関わりながら問題を見いだす力 (2) 問題解決の過程を理解し、予想や仮説を立て、検証に必要な観察・実験方法を計画する力 (3) 観察・実験の結果から考察をし、適切な結論を導き出す力	(1) 自然の事物・現象に対する興味・関心はあるものの、問題を見いだす力に課題がある。 (2) 問題解決の過程に沿って、根拠をもって予想や仮説を立てたり、実験方法を計画したりすることに課題がある。 (3) 観察や実験の結果を表やグラフに整理し、考察したり、結論を導いたりすることが課題である。	(1) 児童が自然の事物・現象へ主体的に関わりながら問題を見いだすことができるように、児童の興味・関心を高める事象提示・体験活動を工夫する。複線型授業を通じて相手と対話する機会を設け、疑問や気付きを共有し、問題の設定を明確にしていく。 (2) 学年間や理科支援員との連携を図り、問題解決の過程を重視した授業展開や各学年が重点的に身に付ける資質・能力を確実にする。 (3) 結論を「結果からわかること」と「そう考えた理由」とに分けて書かせる。「～という結果から、～だと考えられる」といった文型を繰り返し練習させる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活科	(1) 見通しをもち、自ら学習を進める力 (2) 人やもの、こととの関わりをとおして気付きを深める力 (3) 互いの気付きや考えを伝え合い、学び合う力 (4) 自分の思いや願いの実現に向けて、主体的に活動する力	(1) 自分のことを振り返ることはできるが、自分と他者との違いに気付くことに課題がある。 (2) 自己や他者、対象との関わりから得た気付きを学習に関連付けたり、新たな気付きにつなげたりすることが少ない。 (3) 対話が成立しなかったり、聞き手が受け身になり、学び合いへ発展しなかったりすることが課題である。 (4) 思いや願いが漠然としており、実現のための具体的な方法や見通しをもてない児童がいる。	(1) 授業の振り返りでは、自己評価や児童相互の認め合いを通して、自分と友達の気付きや考えの違いに注目させ、学習のゴールを意識して児童自らが次時の学習につなげる。 (2) 活動の様子を丁寧に見取り、一人一人の気付きを価値付けるとともに、問い返しや交流場面を意図的に設定し、気付きの関連付けや意味付けを促すことで質の向上を図る。 (3) 複線型授業を展開し、学習のゴールを踏まえて活動方法や調べ方、伝え方等を主体的に選択・決定できる場を設定する。また問い返しや交流活動を通して、多様な気付きを交流し、気付きの質を高める。 (4) 地域の人や自然、他学年などと直接関わる体験活動を充実させ、「考える→試す→工夫する→振り返る」を繰り返す活動を設定する。また、必要に応じて学習方略を示し、主体的に学習方法を選択・活用できるよう支援する。

令和8年度 授業改善推進プラン

			(5) 観察カードや ICT 等を活用し、児童が自分に適した表現方法を選択・決定できるようにすることで、思いや気付きを豊かに表現できるようにする。
音楽	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	【5・6年生】 (1) パートの役割や他の声部との関わりを意識しながら表現する技能 (2) 曲想と音楽の構造との関わりに気付き、感じ取ったことを言葉で表現する力 (3) 友達と声を聴き合いながら、すすんで合わせて歌おうとする態度	【5・6年生】 (1) 合奏は得意である。一方、歌唱の二部合唱では自分のパートを保持しながら他のパートを聴いて合わせることに苦手であり、音程やリズムがずれてしまう。 (2) 鑑賞において、音楽を聴いて感じたことを自分の言葉で書き表すことに課題がある。 (3) 高学年になり、恥ずかしさなどから、誰とでも積極的に関わり合いながら音楽表現をすることが難しい。	【5・6年生】 (1) 各パートの音取りを丁寧に行った後、複線型学習を取り入れ、少人数のグループで互いの声を聴き合いながら合わせる活動を段階的に取り入れる。パート練習と全体練習を繰り返すことで、他パートを意識しながら歌う力を育てていく。 (2) 鑑賞で感じたことを書く前に友達と話し合う時間を設け、出てきた言葉を板書やキーワードカードで共有してから書く活動につなげる。例文や語彙カード、選択肢式項目のあるワークシートを用意し、児童が自分の思いを表現しやすいよう工夫する。 (3) ペアや少人数など恥ずかしさを感じにくい活動形態を工夫し、安心して声を出したり意見を伝え合ったりできる雰囲気づくりを行う。
	【3・4年生】 (1) 音楽の特徴を感じ取り、友達と伝え合いながら音楽を味わう力 (2) 自然で無理のない声や楽器の音を生かし、友達と合わせて表現する技能	【3・4年生】 (1) 自然で無理のない声で歌うことや、友達の声の聴きながら表現することに課題がある。 (2) 音楽から感じたことを自分の言葉で表現したり、友達と考えを共有したりすることが十分ではない。	【3・4年生】 (1) 児童が学習のゴールを明確にイメージできるよう、めあてや活動の見通しを分かりやすく提示する。 (2) 児童同士の意見交流が活発になるよう、発問を工夫し、ペアやグループで考えを伝え合う活動を取り入れる。
図工	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	(1) 想像したことから、表したいことを考え、より良い作品にする力	(1) 作品を完成させることが目的となり、活動が作業化してしまう傾向がある。作品を細部まで仕上げることや過程を振り返り改善することに課題がある。	(1) 作品を鑑賞するなど振り返りの時間を設け、他の人の作品や自分の作品の良さに気付いたり、次の活動に繋げたりすることができるようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	(2) 前学年までに使用した材料や用具の扱い方、表現方法の経験を生かし、工夫して表現する力 (3) 芸術活動や文化に興味・関心をもち想像力を広げる力	(2) 前学年までの経験を生かし、学習を行うことに課題がある。 (3) 多角的に対象を捉え、発想を広げることに課題がある。	(2) 前学年までの材料や用具を活用し、系統性を意識しながら作品づくりに取り組むことができるような題材を設定する。 (3) 複数の学習材や学習方法を掲示し、児童に選択させ、豊富な創作活動や発想ができるようにする。
--	--	---	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	(1) 学習したことを家庭生活に生かす力 (2) 生活を見つめ、家庭生活をよりよく工夫する力	(1) 生活経験の差が大きく、日常生活における課題に気付くことが難しい。 (2) 家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する意識が低い傾向にある。	(1) 教師が実演し、正しい手順を指導した上で児童が実習する機会を設けることで、授業内で児童全員が同様の体験をできるようにする。 (2) 調理や裁縫などの実習では、安全指導を徹底した上で、児童が試行錯誤しながら思考できる活動の場を設定し、知識・技能の習得を図る。 (3) 家庭で取り組みやすい課題を紹介することで、家庭生活によりよく関わろうとする意識を育む。 (4) 授業において、児童の身近にある課題を取り上げること、自分の生活を振り返らせる。学習をととして、自らの課題に気付いたり、解決する方法を考えたりすることで、生活をよりよくしていこうとする態度を養う。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	(1) 各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能	※令和8年度体力テスト結果をもとにした課題 (1) 全校的に 20mシャトルランの平均値が、男女ともに全国平均値を下回っている。同じ動きを持続して行う力（持久力）に課題がある。特に女子のボール投げの平均値が、全国平均値を下回っている学年が多い。投力に課題がある。日常の投運動の経験の少なさも関連があると予想される。	(1) 様々な動きのある運動遊びや補助運動を繰り返し取り入れたり、動画を使って動作の確認をしたりして、基本的な動きを身に付けさせる。また、楽しみながら取り組める活動を授業の中で継続的に設定し、筋力や持久力を高められるようにする。投の運動につながる準備運動を行ったり、日常的に投の運動ができる環境をつくったりする。（筒投げ、ロケット飛ばし）

令和8年度 授業改善推進プラン

	(2) 自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり、工夫したりできる思考力・判断力・表現力 (3) 運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度	(2) 自己の課題に適した場や方法を選び、上達のためのポイントを考えて運動することに課題がある。 (3) 勝敗や記録に価値の重点を置き、楽しさが「勝つこと」に限定されてしまう傾向がある。そのため、運動の喜びや協力・挑戦することの価値が軽視されがちである。	(2) 事前に教科書やタブレットを用いて、自己の目標や達成のためのポイントを掴むようにさせる。教師が課題に合わせて場を複数用意し、運動に対する抵抗感をなくさせる。 (3) 勝敗以外に、「協力する」「新記録を目指す」「自分なりの工夫を発表する」など、複数の価値観を取り入れる。 (4) 運動委員会による集会や大会を実施する。 (5) 教員実技研修の実施 若手教員を対象の中心として、児童の運動能力向上が期待できる運動を、実技研修を通じて身に付ける。
--	---	---	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	【低学年】 (1) 英語で挨拶、自己紹介、好きなものを言ったり、友達の好きなものを聞いたりできる。 (2) 簡単な指示や質問を聞いて理解できる。	【低学年】 (1) 日常生活で外来語として使われていない言葉の定着が十分ではない。 (2) 友達の好きなものを聞く表現の定着が十分ではない。	【低学年】 (1) アクティビティの中に、集団や少人数で発声するだけでなく、一人で発声する場面を設定する。 (2) 既習の言葉を発声する機会を随時設ける。
	【高学年】 (1) 自分の思いや考えを学習した表現を用いて表す力 (2) 積極的に相手に働きかけ、表現を用いて伝えたり聞いたりできるコミュニケーション力	【高学年】 (1) 慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使って伝え合おうと意欲的である。一方、音声での発音から文字への学習に円滑に繋げることが難しい傾向がある。 (2) 身近で簡単な事柄を伝え合おうとする意欲がある。一方で、英語によるコミュニケーションを図ることに課題がある。	【高学年】 (1) 児童が話したくなる目的や場面、状況などを設定することにより、児童の発話を促す。 (2) クラスルームイングリッシュやALT とのやり取り場面、英語表現を使う見本等を積極的に示し、英語に対する抵抗感を減らし、児童にとって取り組みやすい雰囲気をつくる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	(1) 道徳的価値を理解し、自ら正しいと判断したことを実践しようとする態度	(1) 道徳的価値について理解していても、自分の問題として捉え、主体的に行動することに課題がある。	(1) 児童の日常生活に関わる身近な道徳的課題を取り上げ、自分ならどのように考えるかを表現する場を設定し、主体的な価値判断

令和8年度 授業改善推進プラン

	(2) 自分で考え、主体的に判断・行動する力 (3) よりよい生き方を求めて、自己を見つめ改善しようとする力	(2) 周囲の意見に合わせる傾向があり、自分の考えをもって判断・実践することが難しい場合がある。 (3) よりよい行動について考えても、実生活の中で継続して実践することに課題がある。	を促す。 (2) 多様な考え方や立場に触れながらも、自分自身の考えをもって意思決定する学習活動を充実させる。 (3) 自ら判断したり、責任ある行動をしたりする場面を積極的に価値付けし、自己肯定感を実践意欲の向上を図る。
--	--	---	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	(1) 違いを認め合い、共に生きていく力(人間関係形成力) (2) よりよい集団や社会をつくらうとする力(社会参画力) (3) なりたい自分になろうと努力する力(自己実現力)	(1) 部活動や委員会活動において、活動が重視され、目標が形骸化していることがある。 (2) 話し合いでは、他の意見の良さを認めたり、建設的な話し合いをしたりすることに課題がある。 (3) 学級活動において、その学級に応じた集団や個人の課題を見いだすことが難しく、計画的に話し合い活動を行うことができていない。 (4) 学級活動において、キャリアパスポート等を活用してなりたい自分について考え、今の自分を見つめ、一人一人が目標をもつことはできている。一方、その目標のためにそれぞれが考えて活動できていない。	(1) 学級活動や係活動、委員会、部活動において、必要に応じて個別に言葉がけをしたり活性化を促したりする。 (2) 高学年では、児童会活動やクラブ活動をととして、学校のため、同じクラブの友達のためにという意識をもって話し合わせる運営を年間として行うことで、他者意識をもちながら活動に取り組めるようにする。 (3) 学級の現状をアンケートや写真などで可視化し、児童が客観的に捉えられるようにする。 (4) なりたい自分、目指したい自分について児童一人一人が考え活動できる時間を確保する。キャリアパスポートを活用し、定期的に自分自身を振り返るようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	(1) 地域と関わりながら課題を設定し、主体的・協働的に学習する力 (2) 他教科で身に付けた知識・技能を活用して、よりよく問題を解決する力	(1) 自ら関心をもって新しい課題を設定することが難しい。 (2) 情報収集、整理・分析の際、インタビューやグラフ等の、各教科の学習で身に付けた知識・技能を活用することが難しい。	(1) 単元計画の作成時に探究課題を精査し、児童が興味をもった活動に試行錯誤しながら取り組めるよう、余裕のある時数を設定する。 (2) 各学年で身に付けさせたい表現方法の知識・技能を明確にし、カリキュラム・マネジメントすることで、まとめ・表現活動を豊かにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

		(3) まとめ・表現の際、学習した方法を生かす意識が低いことがある。	(3) 教科横断的な課題を設定し、各教科での学びを生かす必要感をもたせる。
--	--	------------------------------------	---------------------------------------